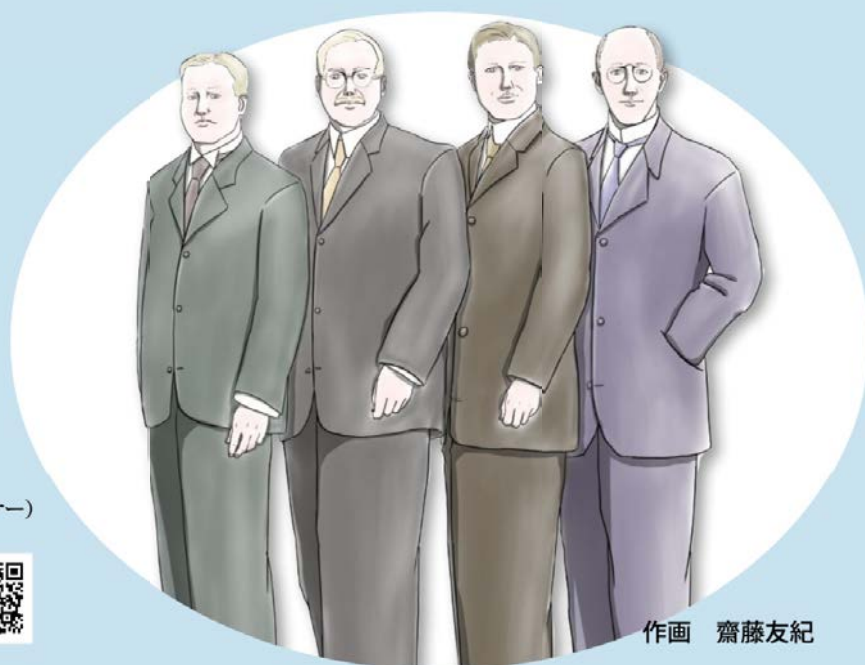


連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

▶ 第1章  
ポールの生い立ち（前半）



原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦（2002-03年度 第2680地区ガバナー）  
制作 株式会社アイディ

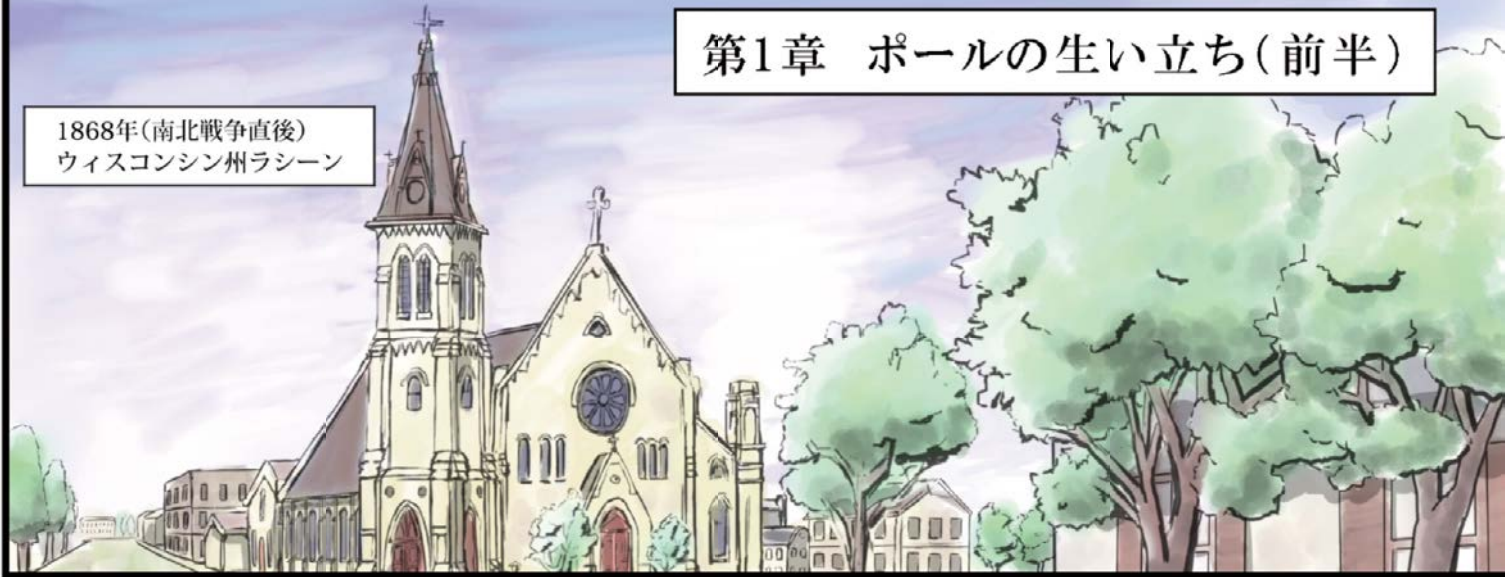
アニメーションも公開中！  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>



作画 齋藤友紀

# 第1章 ポールの生い立ち(前半)

1868年(南北戦争直後)  
ウィスコンシン州ラシーン



ポール・ハリスは  
アメリカ北東部  
バーモント州の  
ウォーリングフォード  
に定住した家系に  
生まれました。



祖父ハワード・ハリス

ポールは・・・  
ようやく  
眠ったか・・・



祖母パメラ

父方の祖父ハワード・ハリスと  
その妻パメラとの間には5人の  
子どもがあり、その中の3人は  
早世しています。



父ジョージ

兄セシル

母コーネリア

ポールの父ジョージは  
その残った2人のうちの一人で、  
母はコーネリアといいました。

父のジョージは祖父の  
助力で、ラシーンに  
雑貨店を開業します。



が、しかし・・・



発明と文筆に熱中し、  
商売をおろそかに  
してしまい――

その結果、倒産の憂き目に  
遭いました。



このために一家は四散  
することになってしま  
います。





二人を置いていくこと  
になってしまい…  
本当にすまない

ニーナはまだ  
小さいから  
仕方がないですよ

後に生まれた妹のニーナ

この時、ポールは  
まだ3歳でした。

妹は幼少だということで  
母と共にラシーンに残り  
ました。

ポールは父と兄セシルと共に  
祖父のところに身を寄せる  
ことになりました。

おじいちゃん  
のところに行くの？

そうだよ…  
3人でいくんだ

それから間もなく兄セシルは  
伯母に引き取られます。

この人「スーおばさん」は  
ポールの母の姉に当たり、  
戦争で夫を失い、  
子どもがいませんでした。


こうして、ポールだけが祖父母の  
家で養育されることになります。

何度も本当に  
すまない、父さん

今度こそは、うまく  
やっておくれよ

その後、祖父のハワードは父ジョージのために  
ウォーリングフォードの近くの町で雑貨店を  
開きました。







そして、母もここに移り、再び一緒に住むことになります。



その時のことをポールは後にこう言っています。



僕はその時、はだしだった。泥んこになって遊んでいた。



そうしたらウォーリングフォードの駅の線路をまたいで


いまだかつて会ったことのないような美しいお婆さんが私の方へ歩いてきた。



「坊や、あなたはポールでしょう」と尋ねるので



「そうだよ、お婆さん」と答えると



即座に、「お婆さんじゃない、お母さんだよ」と私を抱きしめてくれた。

私はこの日のことを一生忘れない。

こんな美しい人が自分の母親であったことを喜ばしく思った。



再び巡ってきた一家団らんの中で、  
ガイ、クロード、レジノールという  
3人の弟が生まれます。



しかし…この円満は長くは  
続きませんでした。

父は再び道楽の  
発明に凝りだし、



それで手っ取り早く金儲けを  
しようと考えたのです。

母もピアノや合唱団を指導して  
いましたが、その月謝の倍のお金  
を出してお手伝いさんを雇うなど、



浪費を繰り返しました。

その結果、再度の破産。ポールは  
悲しげに当時を回想しています。



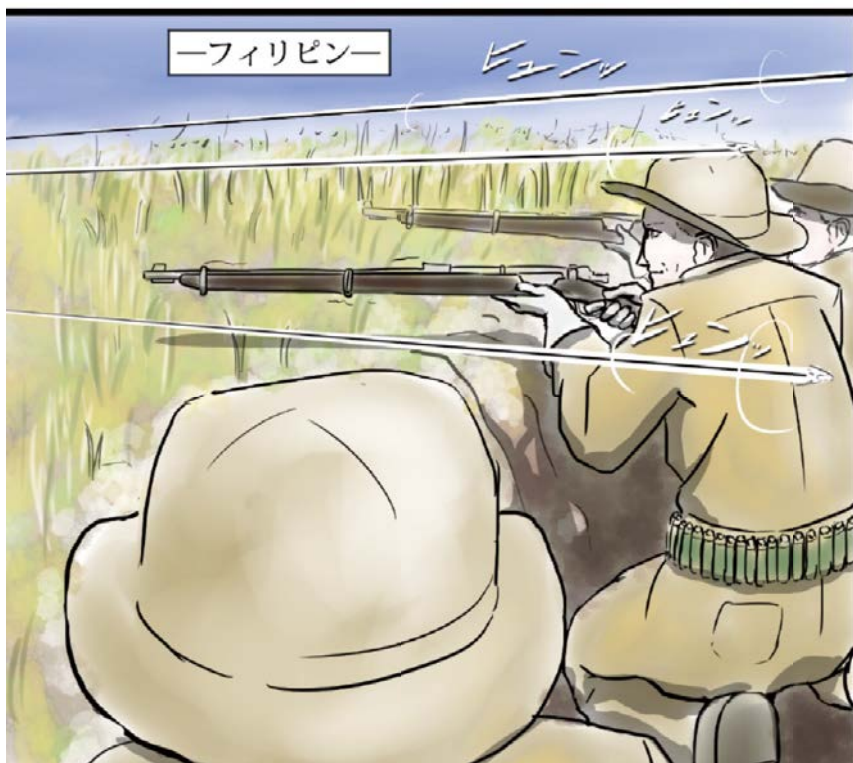
「両親とも過去の不幸な出来事から全く  
何も学んでいないかのようにあった。  
事業にも家庭にも、ラシーンの悲劇が  
そっくりそのまま再現されていた」

兄弟のうちセシルと



ガイは早世——。

—フィリピン—



後にクロードは米西戦争で  
出征したフィリピンで  
戦死してしまいます。



ところで、ポールたちの祖父、ハワード・ハリスは信仰の自由を求めて、早い時期にイギリスからアメリカに移住したピューリタン(清教徒)で、農民でした。



儉約家で、ポールの父のために店を用意し、ポールを大学まで行かせるなど、援助を惜しまない人でもありました。

ポールには休暇中、毎日少しずつ勉強をしてもらいたいんだよ





そうした言葉だけに頼らない、心と心のつながりは、



後のロータリーの在り方に大きな影響を与えています。

2人目は父方の叔母の夫、  
医師のジョージ・フォックスでした。



…あの、残りのお金はなんとか用意しますので、もう少し待ってもらえませんか？

いいえ、残りのお代は  
払わなくて良いですよ



困った人から治療費を  
請求するなど初めから念頭に  
なかったといわれています。

それより、お体を  
大事にしてください



この、人のために奉仕しようとする叔父の姿勢が、  
多感で孤独な少年ポールに、他人に対する思いやりと  
献身が、人生をどれほど明るく美しくするかという  
感銘を植えつけたのでした。

3人目の人の名前は  
不明ですが、園芸家でした。



人生のこと、自然のことを  
夢のように語り伝えていた  
ということで、



この人は  
ユダヤ人だったと  
考えられています。

ポールが格調高い美文でロータリーの  
思想を世に広められたのは、この人の影響を  
受けたものと信じられています。





連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

▶ 第1章  
ポールの生い立ち（後半）



原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦（2002-03年度 第2680地区ガバナー）  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中！  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>



作画 齋藤友紀



# 第1章 ポールの生い立ち(後半)

ポールは子どもの頃から聡明で感受性豊かであり、遊びの時にも不思議な統率力を発揮したといわれています。



しかし、バーモント州ラードのブラック・リバーアカデミーに入学した時には…



気性が激しく団体訓練になじまず、教師を困らせたようです。

1年後にサクストン・リバーのバーモントアカデミーに転校し、そこを卒業。



1885年



その後、バーリントンのバーモント大学に入学しました。

新入生をおどした仲間の責めを負って退学します。



ところが2年生の時、学生不良グループのリーダー格と見なされ…



この事件にポールは無関係だったのですが、ポールは一言も言い訳しませんでした。





もうこんなことは  
終わりにするんだ！

分かったな！

祖父ハワードは、家に戻ってきた  
ポールを叱りながらも、家庭教師  
を雇って彼を教育するのですでした。

そしてプリンストン大学  
法学部へ入学しますが…

ポール！  
フォックスという  
方から電報だ

ジョージ叔父さん…？  
どうしたんだろう？

Come home at once if you  
want to see grandpa alive.

祖父が生きているうちに  
会いたければすぐに帰りなさい

その年の冬、祖父は他界  
してしまいます。

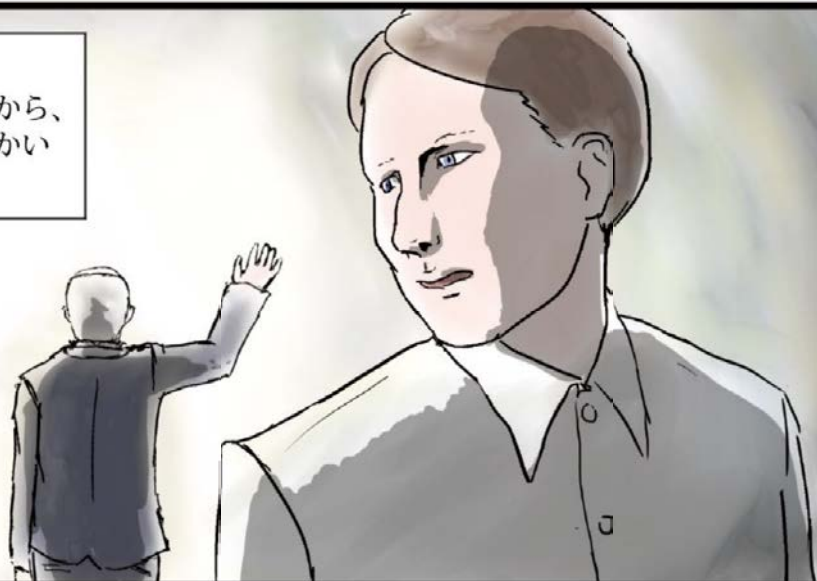


ポールは悲しみにくれました。  
その後遺産相続の話になりましたが、  
ふたを開けてみるとポールの取り分はゼロでした。



ポールはこれを  
「ポールは一人前の男になったのだから、  
あとは任せておけばよい、という温かい  
心遣いだった」と考え、

「遺産がゼロであったことを  
私は誇りに思ったことであった」  
と晩年に述懐しています。





大学での一年を終えたポールは  
祖母と夏を過ごすために帰郷  
しました。

そして、夏休みが終わり  
秋になりましたが…

ポールは大学には戻らず、  
故郷でシェルドン大理石会社の  
事務員として就職しました。

実はこの経験が、彼が後にフロリダ州  
ジャクソンビルのジョージ・クラーク  
の大理石会社に勤める時の役に立った  
といえます。

会社で1年勤めた頃のある日…

ただいま、おばあちゃん

お帰りなさい

もう一度大学で学んで  
みるのはいかがでしょうか？

ねえ、ポール…  
前から考えていた  
のだけれど



ポールは祖母の提案で、アイオワ州立大学に法律を学ぶことにしました。



出発の日……



ポール、あなたは法律家になる適性があるようだから、そのつもりで法律の勉強に力を入れなさい



今までいろいろな人に迷惑を掛け、お世話になって、世の中の人々に大きな借りがあります

一人前になったら一生懸命働いて、その借りを返すような立派な生活をしなければいけませんよ



うん、がんばってくるよおばあちゃん

またすぐ会いに来るからね

ポールは大学に向かう際に、当時新興都市であったシカゴに2~3日滞在し、



故郷バーモント州にはない生気にあふれた街の姿に触れました。

これが後に、ポールがシカゴに住むきっかけになったと思われます。

彼は大学に入ると、弁護士事務所では法律事務の仕事を手伝いながら大学の勉強を続けました。



こうしてアイオワ州立大学を卒業。



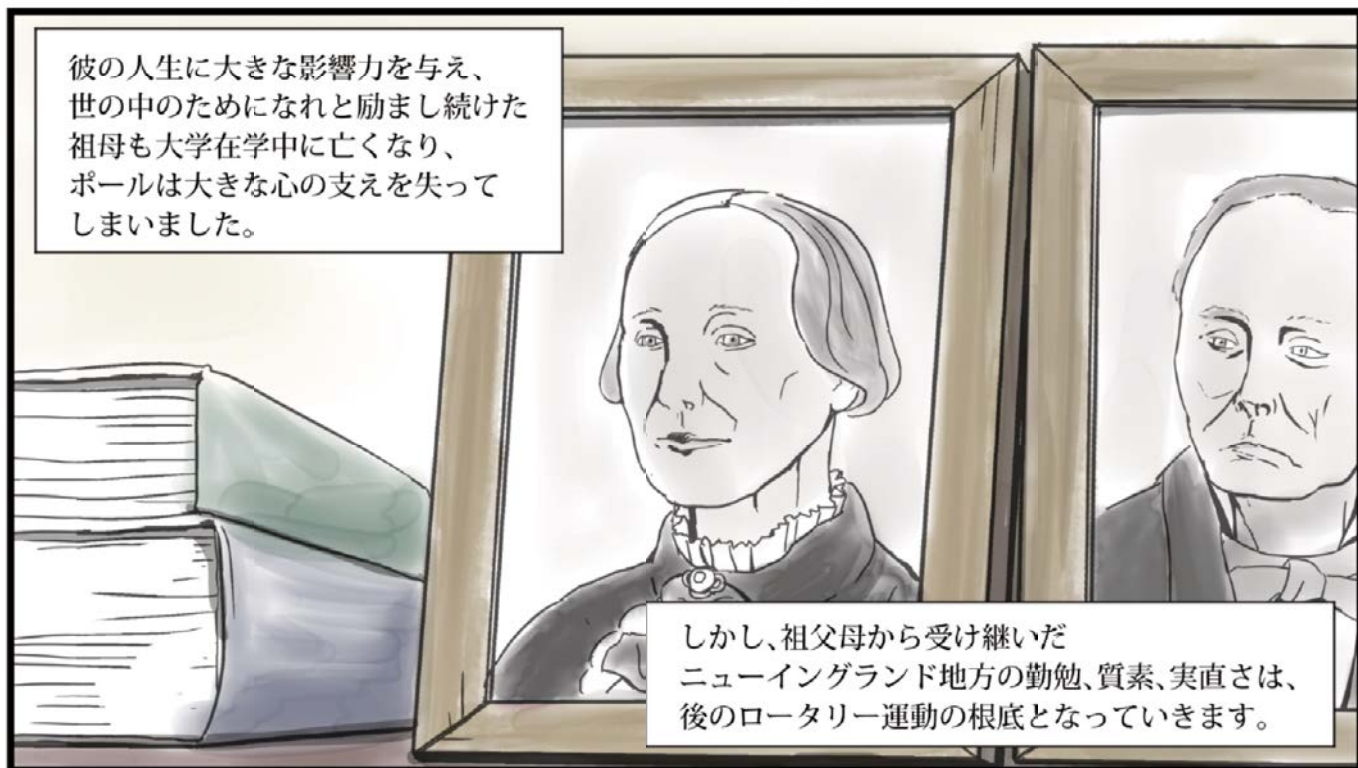




弁護士試験にも合格して  
資格を得ることができました。

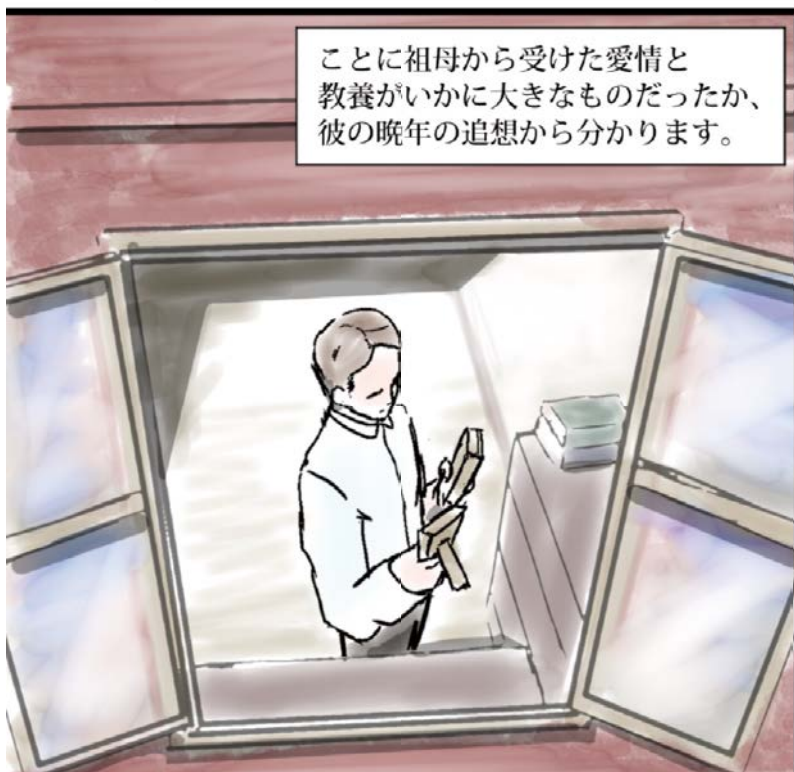


しかし…

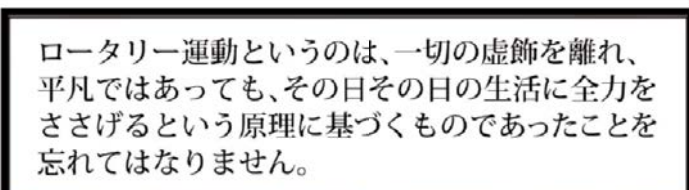


彼の人生に大きな影響力を与え、  
世の中のためになれと励まし続けた  
祖母も大学在学中に亡くなり、  
ポールは大きな心の支えを失って  
しまいました。

しかし、祖父母から受け継いだ  
ニューイングランド地方の勤勉、質素、実直さは、  
後のロータリー運動の根底となっていきます。



ことに祖母から受けた愛情と  
教養がいかに大きなものだったか、  
彼の晩年の追想から分かります。



ロータリー運動というのは、一切の虚飾を離れ、  
平凡ではあっても、その日その日の生活に全力を  
ささげるといふ原理に基づくものであったことを  
忘れてはなりません。



連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

▶ 第2章  
5カ年の「愚行」(前半)

作画 齋藤友紀



原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦(2002-03年度 第2680地区ガバナー)  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中!  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>



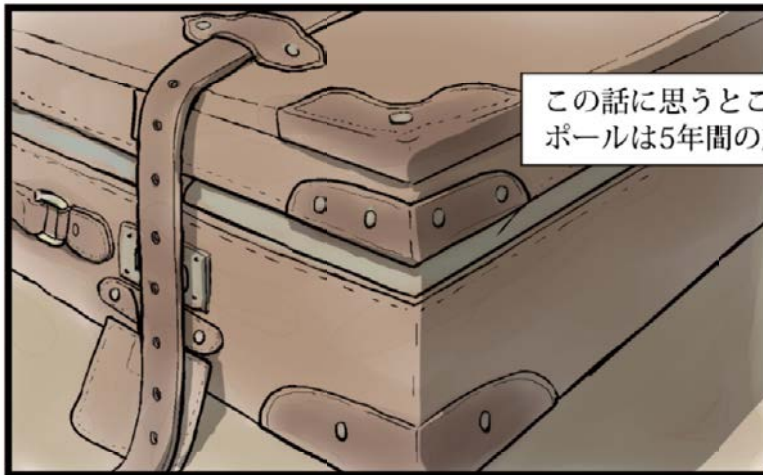


## 第2章 5カ年の「愚行」(前半)

10年先輩の弁護士

卒業後、すぐに仕事に取り掛かるのではなく、5年くらいは田舎の小さな町で生活して、人の営みを観察することも大事だ

アイオワ州立大学の卒業式の祝辞



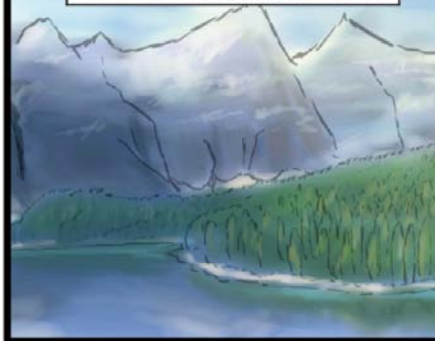
この話に思うところがあり、ポールは5年間の放浪の旅に出ます。



北部の大陸横断道路をたどり、



ロッキー山脈を越えて、



太平洋沿岸の北西部に出て南下し、



サンフランシスコに到着。



そこで、「サンフランシスコ・クロニカル新聞」の通信員として働きます。





南カリフォルニアのフレズノにあった  
レーズン箱詰め工場で働き、

次にロサンゼルスに行き、

ロサンゼルス商科大学の講師  
として9カ月間勤務します。

そこからコロラド州デンバーに  
行き、俳優として多くのファンを  
得ていた時期もありました。

その後、地方新聞  
「ロッキー・マウンテン・  
ニュース」の記者をしたり、

音楽活動について  
インタビューさせて  
いただきたいのですが…

ええ、喜んで

頼むから出てきてくれ！

迷子の牛を何日も探し  
回ったこともありました。

デンバー郊外のプラットビルの  
農場でカウボーイ生活を送り、





ここで「サンフランシスコ・クロニカル新聞」に勤めていた時に親友となったハリー C. プリアムと再会し、一緒に働きました。

さらに、デンバーの「ザ・リパブリカン新聞」の記者となり、



ハリー C. プリアム



ちなみに、プリムはのちにメジャーリーグ野球のナショナルリーグ第6代会長を務めた人物でもあります。



その後、フロリダ州ジャクソンビルに移り、一流ホテルの「セント・ジェームス」の夜間事務員となりました。



この頃、後の親友となるジョージ・クラークと会い、彼の経営する大理石会社の営業部員になりました。

クラークとポール・ハリスとの心の付き合いはこの時に始まるのです。



クリーブランド大統領の就任式を見るためにワシントンに行き「ザ・ワシントン新聞」の記者として働いた後、

1893年



ケンタッキー州

バージニア州

テネシー州

ジョージア州

別の大理石会社の営業部員としてケンタッキー、テネシー、ジョージア、バージニアの各州を巡りました。



この頃、ポールはイギリスの  
小説にのめり込み、



ついにイギリス・ロンドン  
を訪問すべく営業部員  
を辞職。



メリーランド州のボルティモアから出る  
家畜運搬船の水夫として、大変な思いを  
して大西洋を渡りましたが、



着いた先はリバプールで、しかも  
積み荷を降ろすとすぐに帰国。

ポールは大変失望しましたが、  
ロンドン行きを諦めたわけでは  
ありません。



ボルティモア

缶詰め工場で働き、  
再びイギリス行きの  
船に――



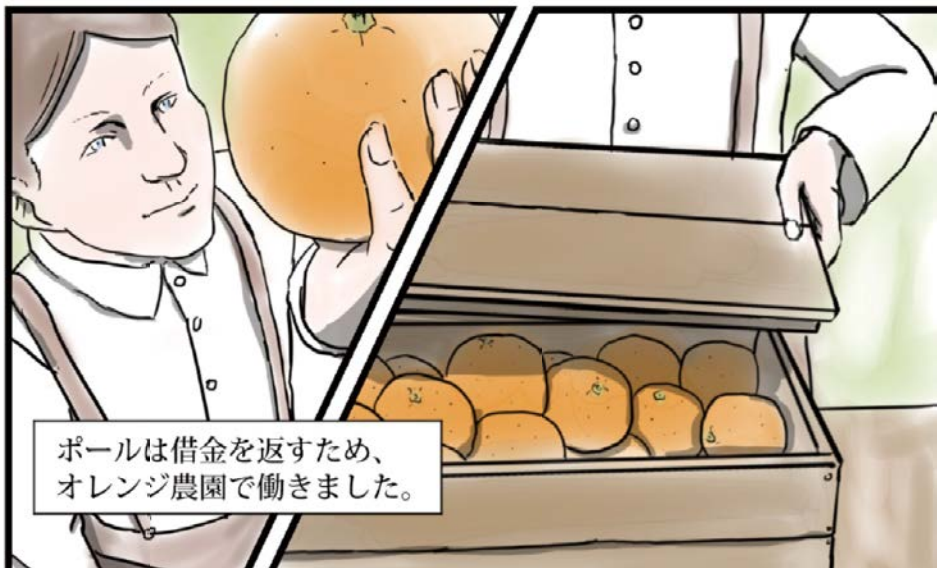
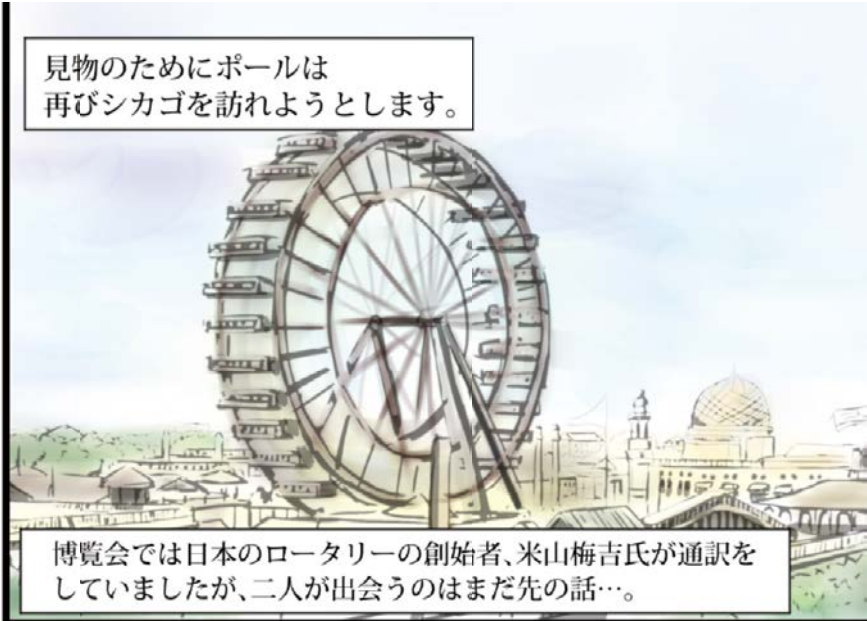
乗った貨物船の行き先は  
ロンドン郊外でした。



船が寄港する  
ウェールズも訪ね、  
イギリス見物を  
堪能しました。









この年のこと



大きなハリケーンがこの地域を襲い、  
大勢の人が命を失いました。



ポールは8歳の少女を  
肩に乗せて小高い丘の  
上の倉庫に逃れ、助かり  
ました。





連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

▶ 第2章  
5カ年の「愚行」(後半)

原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦(2002-03年度 第2680地区ガバナー)  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中!  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>



作画 齋藤友紀



第2章 5カ年の「愚行」(後半)





そして9カ月後、ポールは辞職を申し出ましたが…

まっ待ってくれポール！



そうだ！

他にどこか行きたい所はあるかい？



あります…ですが…

どこだね



…ヨーロッパ



花崗岩の産地  
スコットランド、

大理石の  
アイルランド、



ベルギーやイタリアへ行き、  
外国産の原石の購入契約を結んで  
くるといのはどうだろうか



そう言ってクラークは、直ちにポールをヨーロッパに派遣しました。



ありがとうございます！

これは、よほどの信頼がなければ  
できることではありません。





ポールはヨーロッパ各地の碎石所を視察、



イタリアやベルギーの他にイギリス、フランス、スイス、オーストリア、ドイツ、オランダなどを訪問しました。

ポールの滞在を助けた人が他にもいました。



だいぶ長居してしまいましたので、

明日にはここをたどろうと思います

そう…もう行ってしまふのね

皆が寂しがるね

それにしても、寄り道することなく帰るそうじゃないか

イタリアに住むマクファーランド夫妻

…ポール君、失礼なことを聞くようだが、

もしかすると、旅費が足りないからすぐに帰ってしまうのかい？

…はい

やはりそうか…



私たちはね、君にピサやリボルノ、  
ローマとフィレンツェ、

それと、ベネチアやウィーン

ヨーロッパには、まだまだ  
良い所はあるというのに、

それを見せずに帰し  
たくはないんだ

返すのは君が国へ  
帰ってからでいい

これを受け取っては  
くれないかな？

本当に…よろしいのですか？

ああもちろん

ゆっくりと、

くまなく堪能してきなさい



ヨーロッパ漫遊から  
帰って数カ月後、

5年間の旅に終止符を打つと  
決めたポールは、  
シカゴで弁護士となるべく、  
クラークに辞職を申し出ます。

シカゴか…

君の人柄と才能は  
素晴らしいものだ

ここに居てくれば、  
今以上に稼げると確信  
しているのだがね

確かにそうかも  
しれません

ですが、

私はお金儲けのために  
行くわけではありません

シカゴで人生を生きて  
みたいのです

…君の性格はよく  
知っているつもりだ。  
もう止めはしないよ

それじゃあポール、  
残りの時間で行って  
みたい所はないか？

では、ニューヨークへ  
行きたいです



分かった、最後に  
ニューヨーク出張を  
命じる

こうしてクラークは最後まで  
友情を示しました。

クラークはのちにポールの要請を受け、  
ジャクソンビル・ロータリークラブを創立。  
ポールとは生涯にわたり親交を  
続けることになります。

こうした数々の経験からポールは、  
伝統と習慣の違いがあっても、

人間の生活の根本は善意と友情に  
支えられている、と考えるよう  
になりました。

この彼の思想こそが、ロータリー運動が  
国境を超え全世界に受け入れられる  
基盤をつくったのかもしれない。



連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

▶ 第3章

ポール・ハリスの沈黙考（前半）



原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦（2002-03年度 第2680地区ガバナー）  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中！  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>



作画 齋藤友紀





### 第3章 ポール・ハリスの沈黙考(前半)

1896年2月26日

ポールはシカゴに居を移します。

当時のシカゴは、ヨーロッパからやってきた移民の中継都市として発展し、アメリカを象徴する大都市となっていました。

この時、ポールは弁護士資格を取ってから5年間もたっていたわけですから、法律家としての論理の刃はかなり鈍っていたと思われます。

依頼人が来なかったのは不幸中の幸いだったのかもしれませんが。

そうした間、裁判所に通い、夜遅くまで訴訟記録や判例を読む日々が続きます。

開業から半年ほどたち、徐々に依頼が来るようになりました。

おそらくは同僚の弁護士が見かねてポールを紹介したのかもしれませんが、誠実に依頼人と向き合うことで、

その人がまた別の人を連れてくるという具合に、依頼人が増えていきました。



2年ほどたった頃には  
ポールは安定した生活を  
送れるようになりました。

一方で、そうしたゆとりはシカゴでの暮らしを  
見つめ直すきっかけになっていきました。

コッ...

おっと!

も、申し訳ない

数百人とすれ違おうとも、その中に  
誰一人顔見知りはいない

この街の異様な  
冷たさと寂しさ

こんな心の渇き、故郷には...  
ウォーリングフォードには  
なかった...

このままではだめだ!

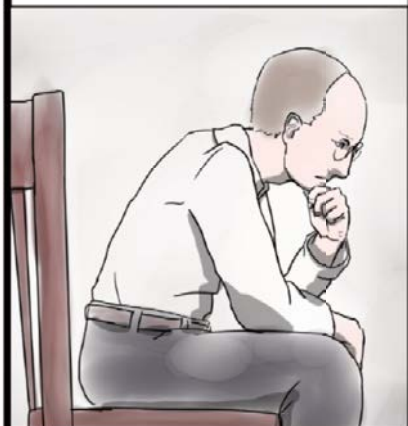


1870年頃から各地の工業化に伴い、都市部の人口が急増。一方で都市機能はまひし、人々の心の荒廃も進んでいきました。



アメリカでは、1890年頃、都市生活を住民の手に取り戻すべく社会改良運動が起きていました。

ポールが都市生活に問題があると感じたのも、ごく当たり前のことでした。



最も心の渇きを感じているのは

それはおそらく実業家たちだ



彼らは自由競争の中に生きている

いつ自分が破滅させられるか、互いに、警戒心に満ちている



この警戒心を解かないことには、問題は解決できない





ポールはまず最初に敬虔なピューリタンとして、教会を頼りました。ところが…



教会といえども職業人の悩みを救うことはできない



新しい仕組みをつくるほかない。しかし一体何をすればいいのか



シカゴの街に移り住んで生活こそ安定はしたが、

私はまだ一介の弁護士にすぎない



知り合いも少ない今の自分の力では何もできない…



こうして悩める2年間は過ぎました。

1900年の夏  
シカゴ郊外

先輩弁護士からの招待を受け、ある会合に出席しました。



それはその弁護士と依頼人たちの会合でした。

弁護士と依頼人との間には強い信頼感がありました。



彼はその信頼関係を基に社交クラブをつくっていたのです。

彼らは楽しげに会話し、心の渇きを癒やすのに十分な時間を共有していました。



これだ…

私が求めていたのは！





その頃シカゴは貧富の差が広がり、  
社会の秩序が乱れていました。



伝統的な仕組みでは  
現状を変えることはでき  
ないだろう



全く新しいものをつくる必要が  
あるのは確かだ…



だが、万が一つくり方を  
間違えれば、何も得られ  
ないものになるだろう



つくるならば、  
人々から信頼と尊敬を  
もって迎えられるような、



今までにない職業人のグループ  
活動でなければならない



1900年の夏から、  
ポールは悩み続けました。



今のままではよくないから  
われわれ同業の仲間同士で  
親睦団体をつくって、親類のような  
付き合いをしよう…

などと言ってもうまくいく  
はずはないだろう

なぜならもともと同業の  
仲間であれば競争意識が  
あるわけだから、

心を開こうといっても  
無理な話だろうな

同業者間では、会った時は「やあ、やあ」とあいさつしていますが、笑顔の裏では何を思っているか分かりません。「早く倒産してくれればいいのに」などと考えていないとも限らないのです。

いや待て、  
同業者…？

そもそも、職業が異なれば関係は  
うまくいくのではないか！

ギソッ…



連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

## ▶ 第3章

ポール・ハリスの沈黙考（後半）



作画 齋藤友紀



原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦（2002-03年度 第2680地区ガバナー）  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中！  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>





### 第3章 ポール・ハリスの沈黙考(後半)

1905年2月23日  
ユニティ・ビル711号室

石炭商の  
シルベスター・シールだ

洋服屋をやっている  
ハイラム・ショーレーです

よろしく

鉱山技師の  
ガスターバス・ローアです  
こちらこそ

まず、このクラブでは親睦を  
目的とした一業種につき一会員を  
原則にしたい

シカゴの街の雰囲気良くない原因の一つは  
同業者による敵対関係にあると考えている

ならば、異業種の人同士の  
気楽な社交の場があれば、  
職業人同士が心を通わせ、  
親睦を深め、

互いの職業を理解してこそ  
助け合えるのだと私は思う



だがそれでは、同業者が100人いたとしても  
1人しか入れないということじゃないか？

確かにそうだ

私も初めは  
「自分の力で1万人の心の渇きを癒やしたい」  
などと考えていたが、

私の力量では到底不可能だ

だからまずはできる範囲で  
始めていこうと思う

1905年2回目の会合 ポールの事務所

ウィリアム・ジェンスンです  
不動産屋を営んでおります

印刷屋の  
ハリー・ラゲルス  
と申します  
よろしく







機は熟した

役員の任命を  
行うべきである

同業者なしに、一業種一会員制を  
もって構成するわれら職業人の  
社交団体は、

今日の良き日、良き場所において  
創立されるに至った

これを記念する意味において  
シルベスター・シールを  
初代会長に推薦したい

こうしてシルベスター・シールが  
初代会長に任命された後、

記録担当幹事に  
ハイラム・ショーレー、

通信担当幹事に  
ウィリアム・ジェンソン、

会計に  
ハリー・ラグルスが  
任命されました。



次に、クラブの名称を決めることになるのですが…。

※「コンスピレイターズ・クラブ」というのはどうだろうか

「共謀者」…  
一体何を共謀するんだい？  
それに普通、良い意味では使われない言葉だと思うよ

う〜ん…

※コンスピレイターズ  
Conspirators(共謀者)

これはどうだ？

趣旨がずれているな…

Booster Club  
The Round Table Club  
Conspirators Club  
The Chicago Fellowship  
Blue Boys  
Chicago Circle  
The Lake Club  
The FFF Club (Food-Fun-Fellowship Club)  
Men With Friends  
Friends in Business  
Trade and Talk Club  
Windy City Roundup

こういう方向から考えてみるのはどうだろうか？

いや、それよりも…

数多くの案が机を埋め尽くす頃、  
誰ともなく声が上がりました…

なあ、われわれは互いの職場をローテーションしながら会合を開いているのだから、

Rotary Club

「ロータリークラブ」と呼ぶのはどうだろうか？

それだ！

賛成するよ

私たちらしいな

ようやく決まったな

こうしてロータリークラブが誕生したのです。



そして徐々にメンバーも増えてきた  
ある例会の日のことです。

チャールズ A. ニュートンが遅れて  
参加してきました。



一体どうしたんだい？

忙しくて、朝から何も食べられ  
なくてね。さすがにおなかが空いて  
昼食を取ってきたんだ…



確かに、  
ここにいるのは皆経営者だ。  
昼食を取る時間が必ずしも  
あるわけではない



その上、人数も増えてきて都合を  
合わせるのも難しくなっている

それならこれからの例会は  
食事を取れる場所で開く  
のはどうだろう

皆で昼食というのも、  
より親睦が深まるんじや  
ないかな

こうして各仕事場での会合に替わって、  
ホテルなどで例会が開かれるよう  
になりました。





連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

## ▶ 第4章

ロータリークラブの発足（前半）



作画 齋藤友紀

原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦（2002-03年度 第2680地区ガバナー）  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中！  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>





## 第4章 ロータリークラブの発足(前半)

3回の会合を経て発足したロータリークラブですが、初期のロータリーには世のため、人のためという考えはまだありませんでした。

われわれが肩を寄せ合っていく上では、親類付き合いをすることだ

われわれの中に敵対関係はない

だからこそ、物を調達したければ、ロータリアンはロータリアンに注文すること

注文を受けた者は、親類からの注文なのだからもうけてはならない

例会と例会の間にはどのロータリアンからどのロータリアンに何をいくつ注文したかをチェックし、

…と原価での取引を義務付けました。

例会中にこれらを発表しました。

そして、一業種一会員制を導入したことでお互いの警戒心がないため、困ったときには皆が知恵を出し合いました。

どうした？  
浮かない顔をして

ああ…

商売がうまくいってなくてな

このままではロータリーに  
いることも難しくなる…











アルバート・ホワイトが弁護士のドナルド・カーターを  
会員にするために勧誘に行くと

2代目会長  
アルバート・ホワイト

断る

!?

なぜですか!?

.....  
分からないのか...?

これは君たちだけが  
得をしているという  
ことだろう

本当にそれで  
いいと思うのか?



君たちだけ肩を寄せ合って  
仲良しになり、揚げ句の果てに  
商売が繁盛する

だが「一業種一会員制」で  
入れない人は？

ロータリーに関係のない  
大勢の市民はどうなる？



ロータリアンがもうかるなら  
それと同じくらいに周りも  
物理的な利便が受けられる  
状態でなければ、

そのロータリー運動というものは  
やがてつぶれる運命にあるだろう



人の尊敬と信頼を受けないような  
団体は長続きするものではない



そんなクラブに、  
私は入るつもりはない

こうしてドナルド・カーターは入会を拒否し、



彼の言葉に圧倒されたアルバートは  
直ちにポールへこのことを報告しました。



どうしたんだ、  
アルバート？







そして、ドナルド・カーターの言葉を受けたポールは…





連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

▶ 第4章

ロータリークラブの発足（後半）



作画 齋藤友紀

原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦（2002-03年度 第2680地区ガバナー）  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中！  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>



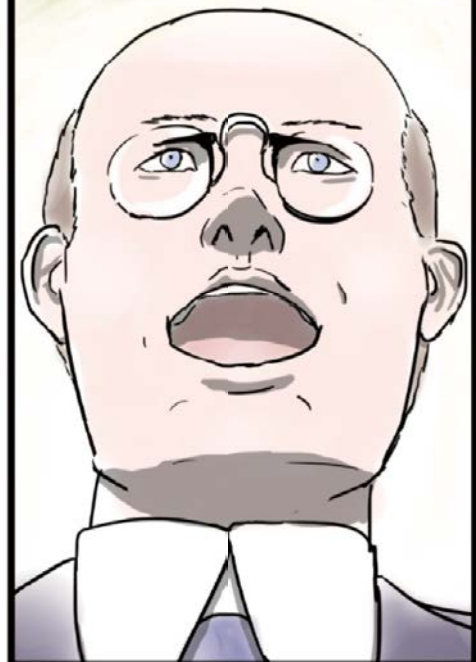


## 第4章 ロータリークラブの発足(後半)

1907年、  
ポールは自薦でシカゴ・ロータリークラブの  
会長に就任しました。

個人的利益のために  
集まるのは  
ロータリーにあらず

われら少数の職業人による親睦の力を、  
世のため、人のために還元する行動に  
出てこそ初めてロータリーは生きてくる



ポールは晩年の追憶の中で、  
会長就任について三つの  
理由を挙げています。

一つ目はロータリーに「世のため、人のため」  
の考え方を導入すること。



二つ目は現状の「利己主義」からの脱却。



三つ目はロータリーの拡大でした。



シカゴの街にはシカゴの街の職業人の理想が  
あるように、ロサンゼルスやサンフランシスコにも、  
ニューヨークやボストンにもそれぞれの理想があり、

ロータリーがシカゴに生まれたからと  
いってそこだけにとどまることなく、



全ての都市の職業人の心の渇きを、  
世のため、人のための実践を通して  
癒やしていかなければならないと考えたのです。



昔のままのロータリーで  
あることは許されない

ロータリークラブの  
生みの親である  
自分しかいない

ロータリーをあるべき  
方向に導けるのは……

しかし…

世のため  
人のため…

自分たちのためだけに  
集まるのは過去の  
ロータリーであり、

これからのロータリーは  
世のため、人のために…

ポールは…

ポールはあんなことを言う  
ために会長になったのか…





一番最初の会合の時、  
私たちは寂しかったのだ

世のため、人のためなど  
一度も言ったことがないのに、  
どこからそんな考えが  
出てきたんだろう

定期的に会合をして  
肩と肩を寄せ合ったら  
楽しいだろうと言った  
のはポールじゃないか



このように、周囲は  
冷ややかな反応でした。



会員の中には例会を欠席する  
人が現れ始めました。

創始者であるポールを相手に  
表立って反対もできず、  
これが精いっぱい行動だったのです。



面白くもないし…  
休ませてもらうよ

ま、待ってくれ!

しかし、クラブの親睦を守るための基本原則として  
「4回連続で欠席した者は自動的に会員資格を  
喪失するべきものと定む」という規定がありました。



この状態がもうひと月続けば、

初代親睦活動委員長  
ドクター・ネフ

このクラブは立ち行かなくなってしまう…







そして例会の日…

世のため！

人のために！

……

私たち職業人の

い？…

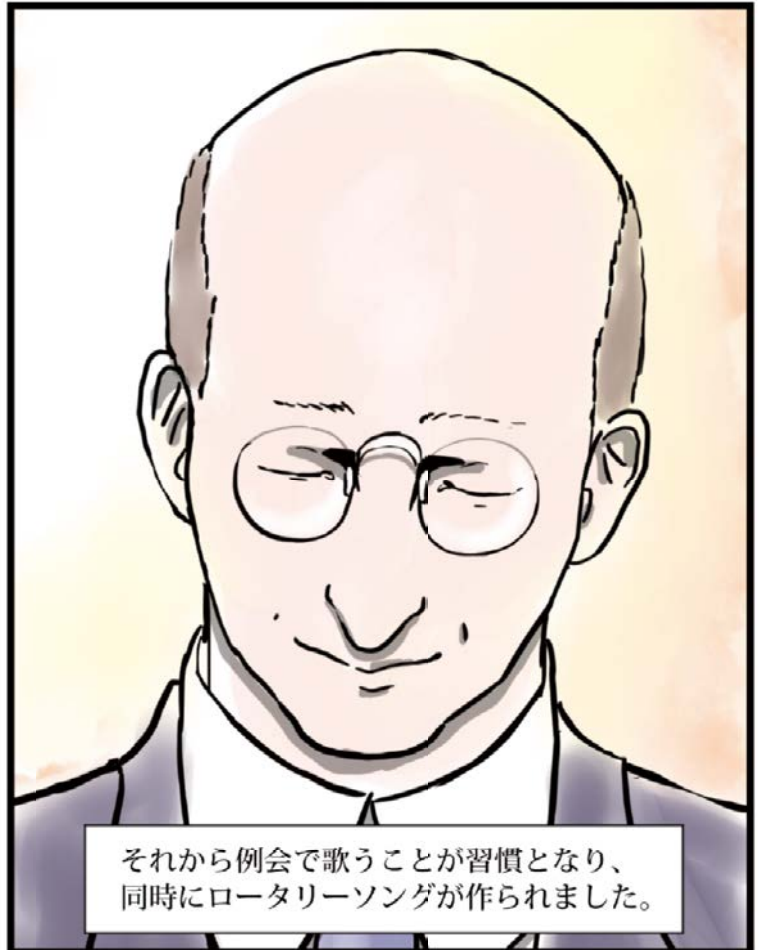
親睦の力を…





皆さん、  
ここで歌でも歌って気分を  
上げていこうじゃありませんか！

こうして、例会の雰囲気は和み、  
崩れかけていた親睦は保たれました。



それから例会で歌うことが習慣となり、  
同時にロータリーソングが作られました。

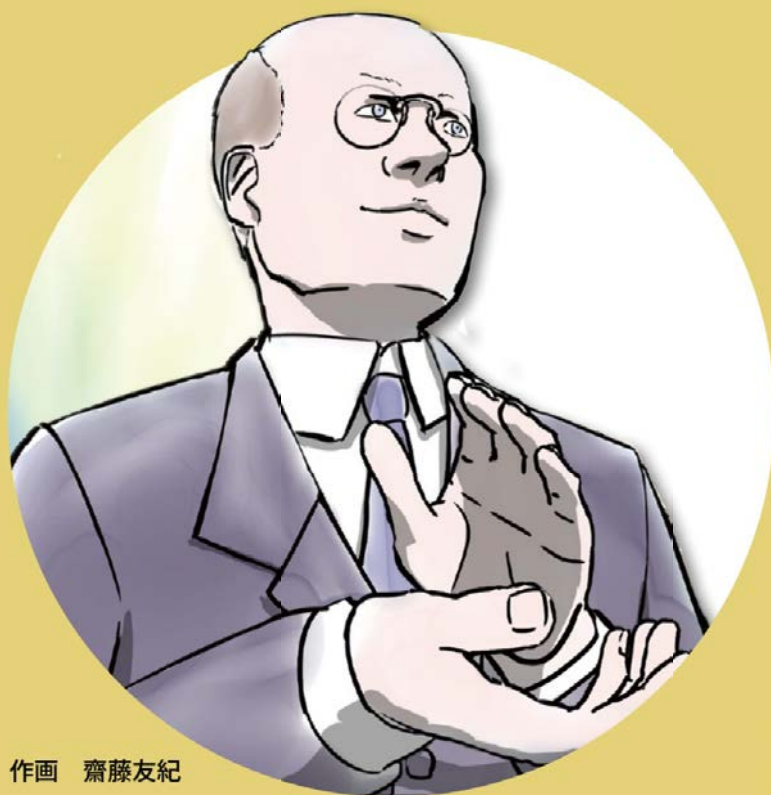
その後1910年、  
各クラブの親睦を保ちつつ奉仕活動を行うため、奉仕の在り方を深く考えながらロータリーを  
拡大していくために、そして、情報の媒介を行使する独立した専門事業団体として、  
全米ロータリークラブ連合会が発足されました。これが後に国際ロータリーとなります。



連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

▶ 第5章  
ロータリーの精神（前半）



作画 齋藤友紀

原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦（2002-03年度 第2680地区ガバナー）  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中！  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>





# 第5章 ローターの精神(前半)



彼はフレデリック・シェルドン



ミシガン大学で経営学を専攻し、  
トップの成績でビジネススクールを  
卒業した優秀な人物です。



彼の理論によると…

商取引は売り手・買い手の  
双方に満足なくして成り立つ  
ものではありません



長期的に商売を  
成立させるためには、



売り手と買い手の間に、

信頼関係が確立  
されることが  
根本です



長期的に  
安定した利潤を  
上げることは、

この信頼関係と表裏  
一体の関係にある

…と、説きました。



彼はそうした信頼関係の確立が、相手の身になって考える「奉仕概念」と一致するものと考えました。

その考え方を企業経営者の心に訴えるかたちで、  
どう表現すれば良いか考え続け、

そして…

He profits most who serves best.  
「その仲間に最もよく奉仕する者が最も多く報いられる」

すなわち、のちにロータリーの標語の  
原型となる言葉を導き出しました。

この言葉が、1911年、  
第2回全米ロータリークラブ連合会の  
ポートランド大会で承認されると、

会場は一瞬水を打ったように静まり…

次の瞬間、万雷の拍手が  
起こりました。



こうして彼の言葉はロータリーの標語に加えられることになりました。

その後、ミネアポリス・ロータリークラブの初代会長、フランク B. コリンズは壇上で…



ロータリークラブの組織の中においてなすべきことがある



それは、直ちに行動を起こすことである

自己のためにロータリーに入会したものは間違った会員である









こうした思想の発展を受け、ポールは…

利己と利他の調和という  
実質的概念を実現するため、

毎週1回の定例会に  
皆で集まり…

その親睦の中で世俗から解放され、  
異業種の知恵が交換され、視野が広がり、

やがて利己と利他との調和が  
見えてくるのではないかと？

その調和が見えてくれば  
利潤を獲得しつつも

社会の全ての人たちの夢を実現する明るい構想が  
開けていくのではないかと？

…と、悟ったのです。

しかし、私利私欲の追求といっても  
社会的責任を免れるものではありません。

まず私利私欲の追求を先とし、  
次に「親睦」があると考えました。



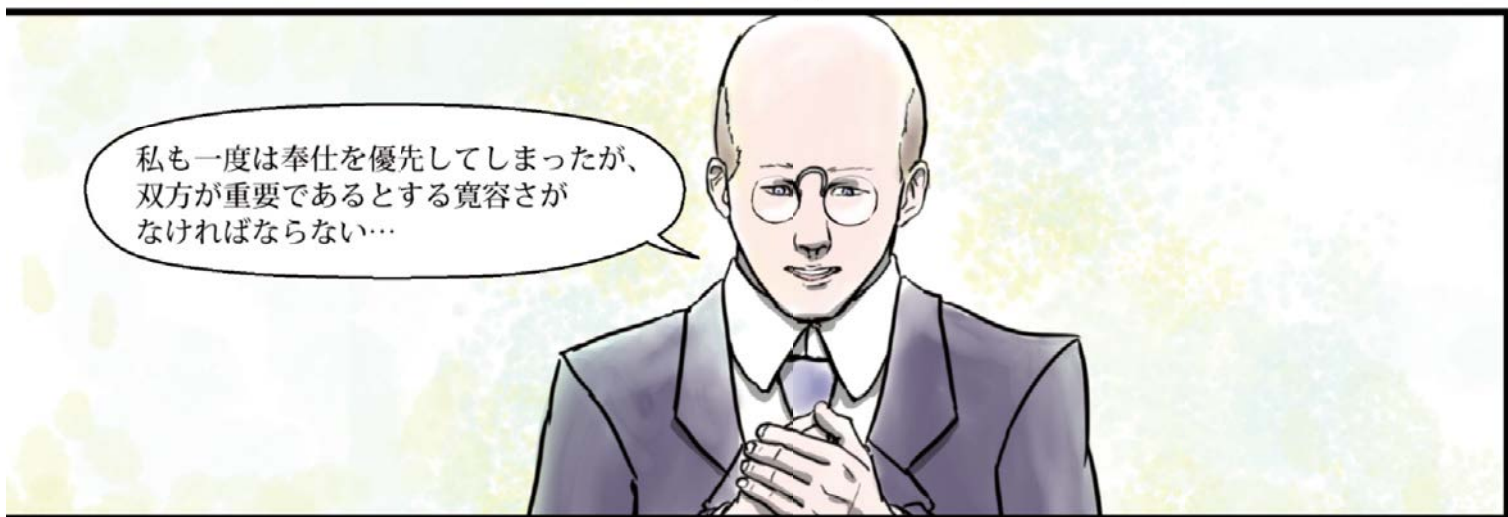


まず、利己と利他の調和を  
図らなければならないが、

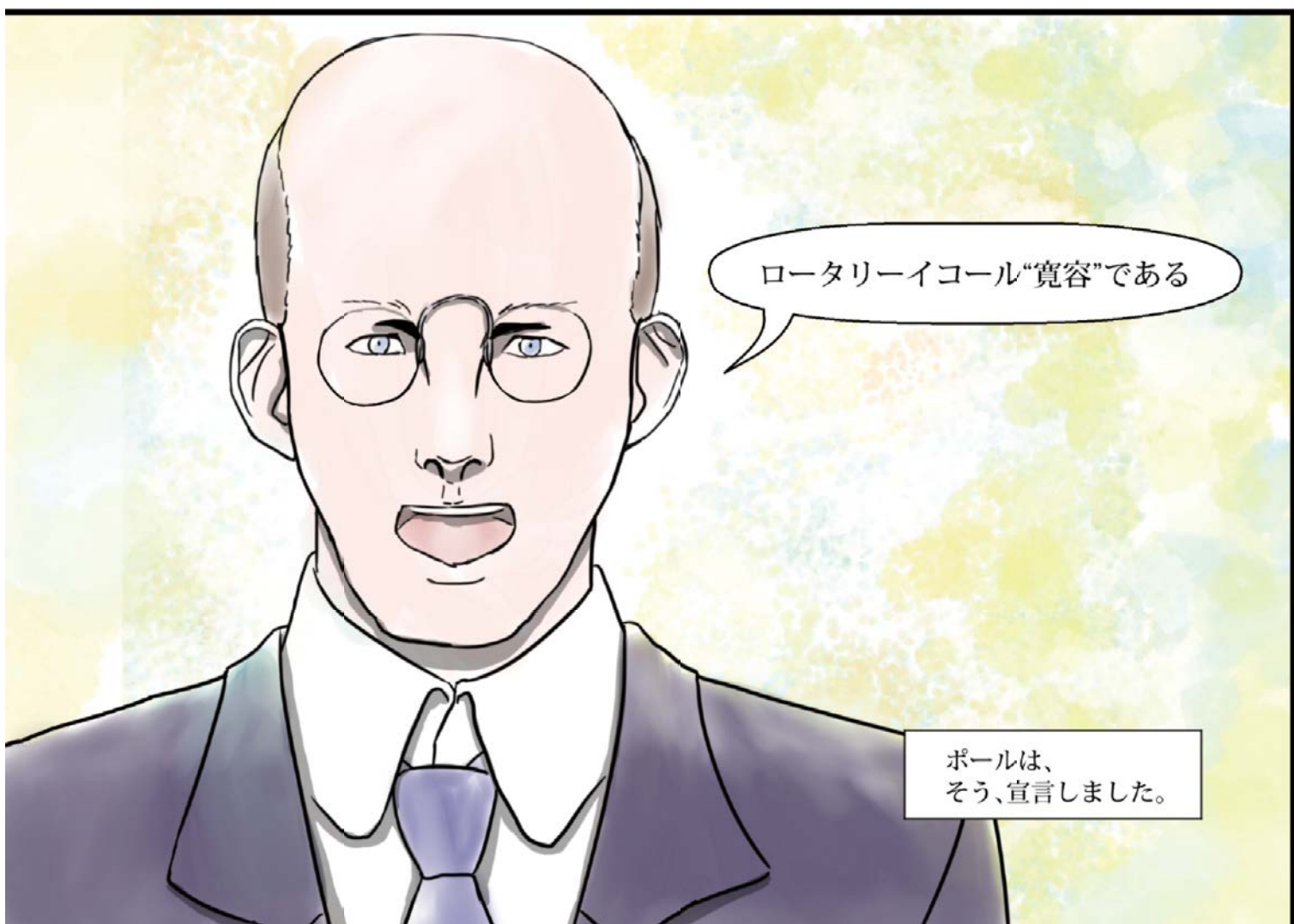
その調和を成せるものこそが  
奉仕ということなのではないか…



ロータリーは親睦と奉仕の  
調和の中に宿る



私も一度は奉仕を優先してしまっが、  
双方が重要であるとする寛容さが  
なければならない…



ロータリーイコール“寛容”である

ポールは、  
そう、宣言しました。



連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

▶ 第5章

ロータリーの精神（後半）

原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦（2002-03年度 第2680地区ガバナー）  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中！  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>



作画 齋藤友紀



## 第5章 ロータリーのスリ精神(後半)

1910年頃…まだ16~17の  
ロータリークラブしかありません  
でしたが、あるクラブが、

身体障害者への教育という、  
全米に起こった問題に着目しました。

1914年のある日  
オハイオ州のトレド。

ねえ、君

はい

君ぐらの年頃なら今の時間は学校に  
行っているはずだと思うのだが…

……





僕は下半身が  
動かない…

身体障害者  
なんです

それに、親が貧乏なので  
私立の学校には  
入ることができません



当時の英米では私立学校での  
教育が中心だったため、お金持ちの  
子どもでなければ、なかなか教育を  
受けられませんでした。



公立学校を造って、貧しい人も教育を  
受けられるようになりましたが、



しかし、まだ、身体障害者を  
受け入れられるような施設は  
ありませんでした。





体に障害がある子どもたちが教育を受けられないことは、その子の一生にとってマイナスであるばかりでなく、

その子の良質なエネルギーを社会に還元できないという意味で社会の損失になるのではないか



われわれは少数のロータリアンの親睦のエネルギーを、世のため人のために還元しようと話し合っているのに、



この悲しい事実を見過ごしていいのだろうか



ロータリーはこれと積極的に関わりを持つようではないか

と、このロータリアンは提案したのです。





そして、お金を出せる者はお金を、



土地を出せる者は土地を、というふうに、



労力を出せる者は労力を、



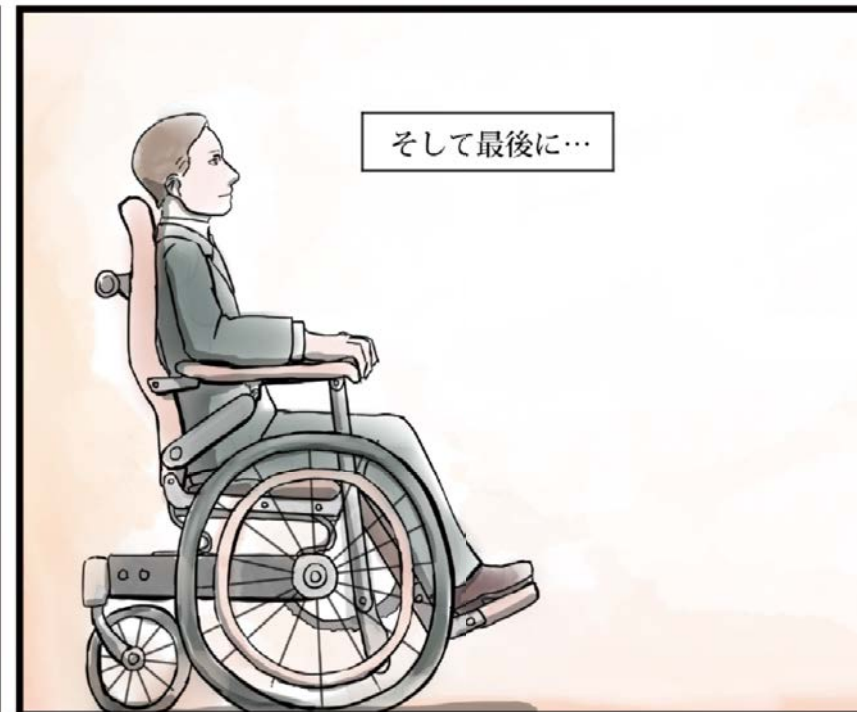
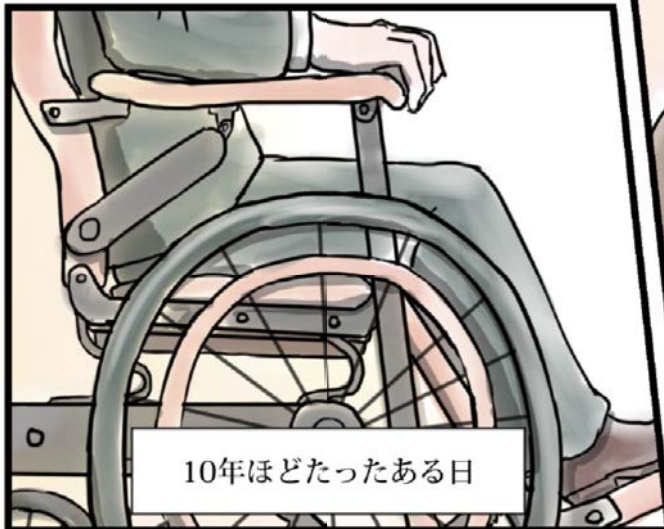
クラブを挙げて取り組み、養護施設を造り、

身体障害者が無料で教育を受けられるようにしました。




このロータリアンこそ、1914-15年度  
国際ロータリークラブ連合会の会長を  
務めたトレド・ロータリークラブの  
フランク・マルホランドその人でした。






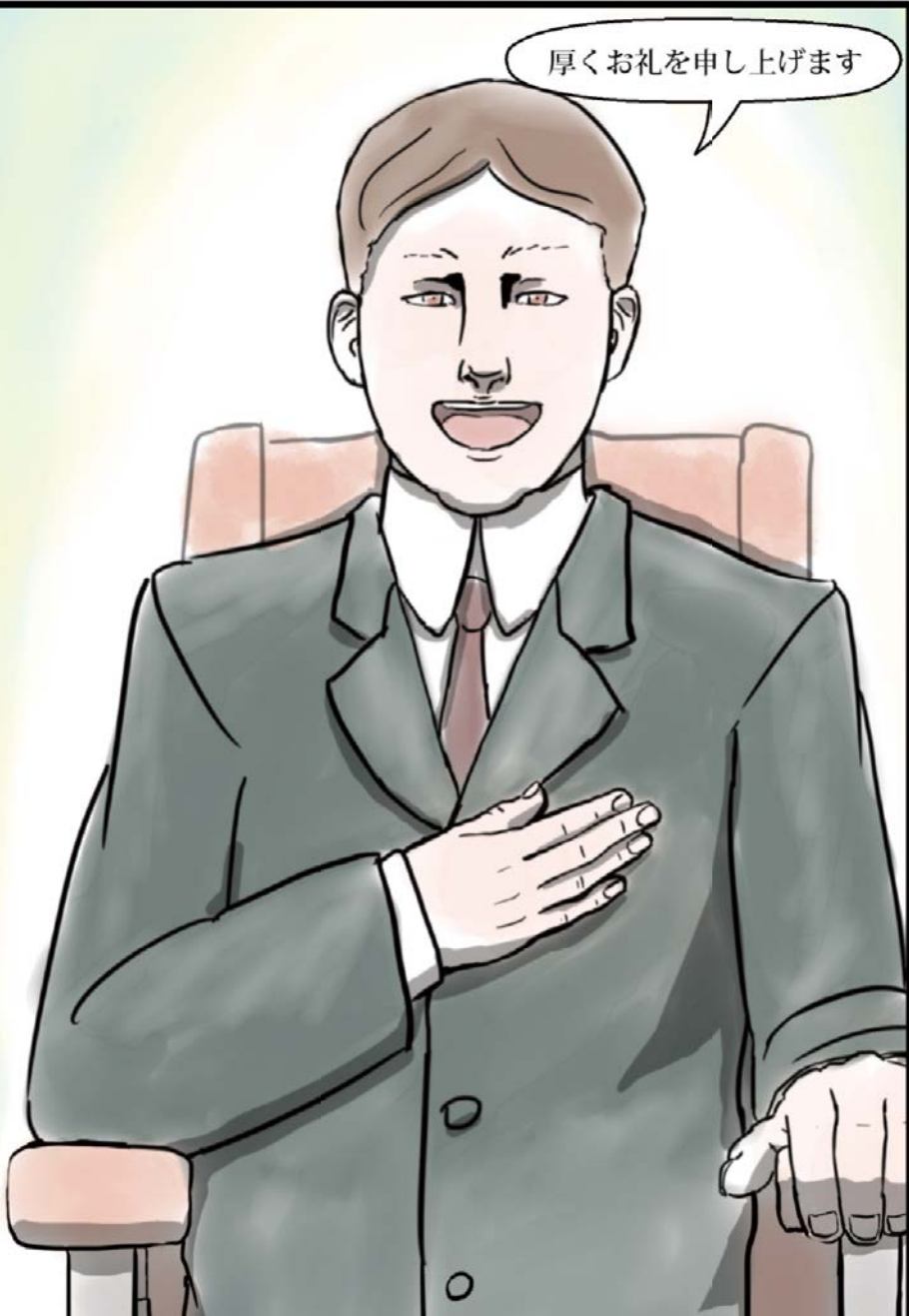





私は卒業後、この学校の教師として  
後輩の教育に携わっています



皆さんの善意が全国の身体障害者に  
幸せをもたらしています



厚くお礼を申し上げます



聞いていた会員たちは涙して、  
ロータリークラブが地域社会と  
共にあることを確認しました。

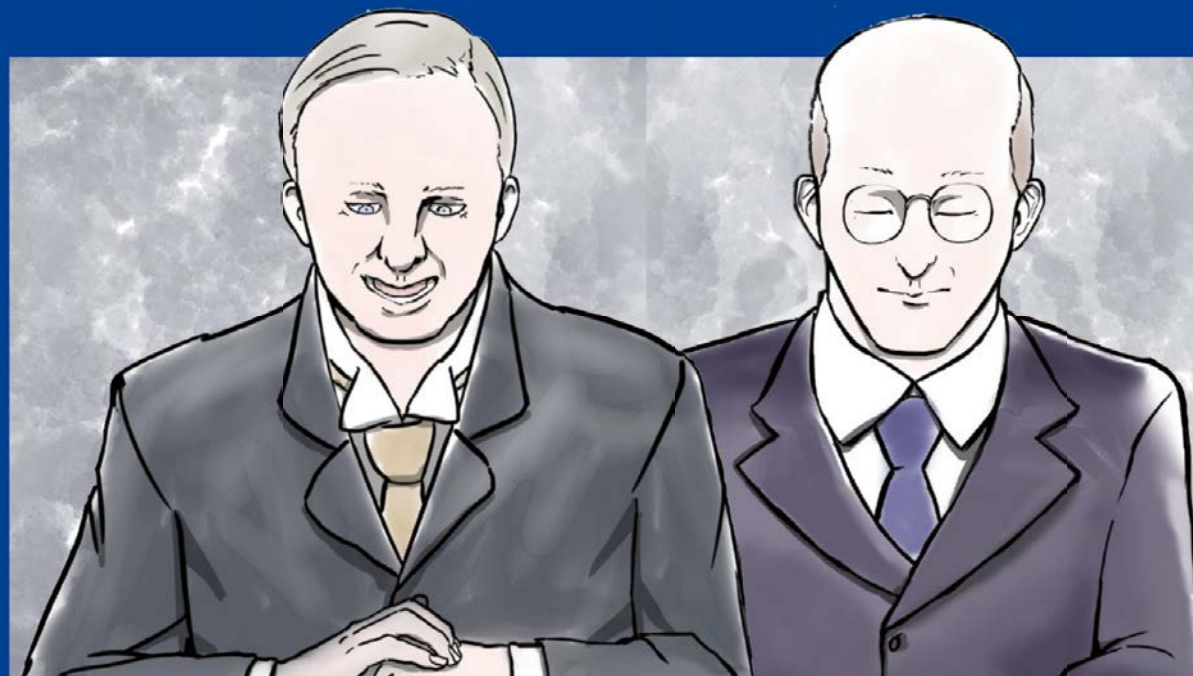


連載コミック

# ポール・ハリスと ロータリー

▶ 第6章

ロータリーの原理・原則（前半）



作画 齋藤友紀

原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦（2002-03年度 第2680地区ガバナー）  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中！  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>





## 第6章 ロータリーの原理・原則(前半)

彼には目の中に入れても痛くないほど慈しんでいた一人息子がいました。

ロータリーが障害者支援に乗り出した1915年頃…



エリリア・ロータリークラブの  
エドガー・アーレン  
(病院経営者)



しかし、踏切事故で、  
息子を亡くしてしまいました。



…もし…



もし、救急医療の体制があって  
適切な治療が施されていたら、

命までなくすことはなかったかもしれない…





エドガーは大変子ども好きで、彼の経営する病院では…



Daddy!  
また来るね!

おい、おい、病院は  
来ないほうがいい所  
なんだからな

だって先生にまた  
会えるんだもん!



ありがとう  
ございました



息子も、生きていたらこの子と同じように  
自身の障害と闘っていたのかもしれないな…



私の元へ来る子どもたちを  
あの子の生まれ変わりだど  
思って余生を送ろう





そうした折…

トレド・ロータリークラブ  
では身体障害者養護学校を  
造ったらしいな



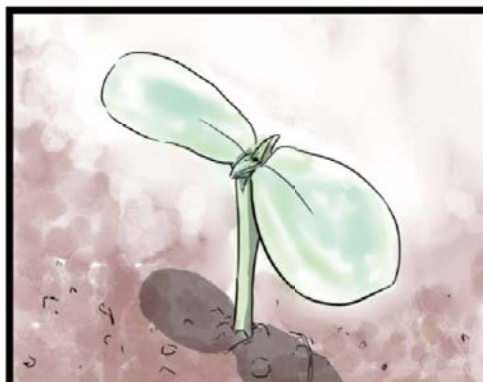
その話、詳しく聞かせて  
くれないか!



そうして彼はエリリアのロータリアンに  
呼び掛け、クラブに協力してもらい、  
身体障害者養護学校を造りました。



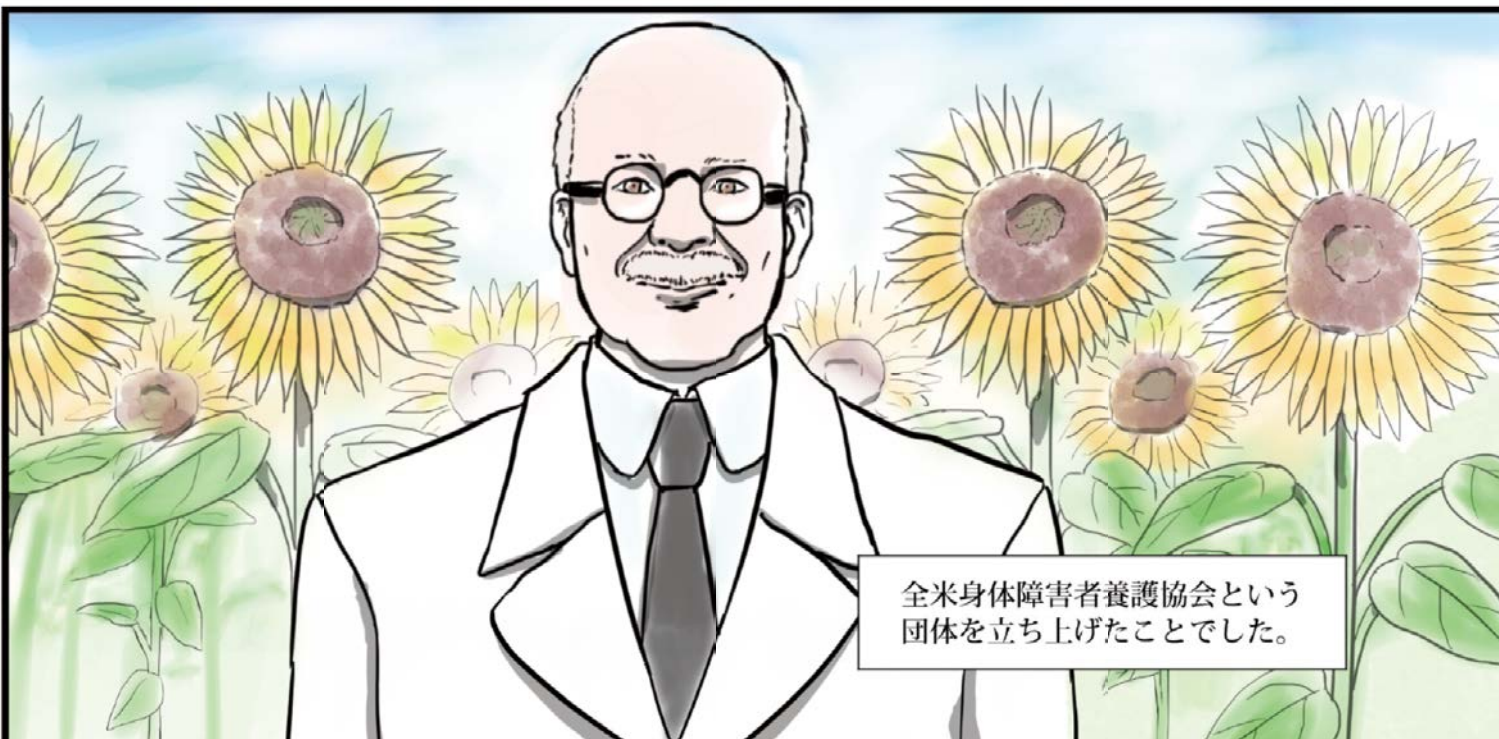
福祉の課題というもの  
は何もないところに種を  
まくようなものです。



労多くして功の少ないものです。



しかし、エドガー・アーレンが  
偉かったのは、学校を造った  
ばかりではなく



全米身体障害者養護協会という  
団体を立ち上げたことでした。



そして、これらの行動により  
全米でロータリー運動の評価  
が高まっていきました。

ロータリーの  
活動は立派だ！

ロータリーは  
身体障害者支援学校設立に  
積極的に取り組んでいるね

ロータリークラブは  
世のため、人のために  
働いているんだな

しかし、この状況を  
良く思わない人物も  
いました…

…エドガーが  
身体障害者養護学校を造り、  
協会を立ち上げ、

その会長となって一生懸命  
やっていることは結構

だが、その勢いを駆って全米の  
問題をロータリークラブが  
解決すべきだというような  
ことになると論外だ

アーサー F. シェルドン

ロータリークラブというのは  
職業人をもって、深い親睦を  
達成することにあり、

深い親睦というのは  
経済秩序を健全化  
することにある

ロータリアンは職業人であり、  
自分の経済的自立を遂げていくことを  
主眼に掲げている人の社交団体





その親睦のエネルギーを  
世のため、人のために役立てると  
すれば、必然的に

自由競争を前提とする社会に  
秩序と定めを打ち立てることが  
できる

一方で…

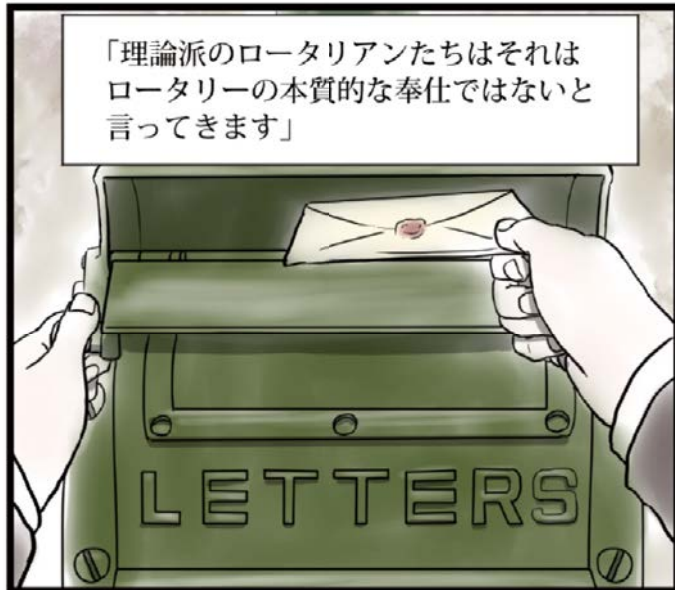


1922年  
批判を受けたエドガーは…

……



「自分は、ロータリークラブの会員として、クラブの  
団体財源を使って、身体障害者養護学校の設立に成功し、  
これがロータリーの社会的信用を高めることに大いに  
力となりましたが、」



「理論派のロータリアンたちはそれは  
ロータリーの本質的な奉仕ではないと  
言ってきます」



「そこでいろいろ考えた結果、あなたなら、私の  
この苦しみを救ってくれるに違いないと思い、  
この手紙を差し上げている次第です」





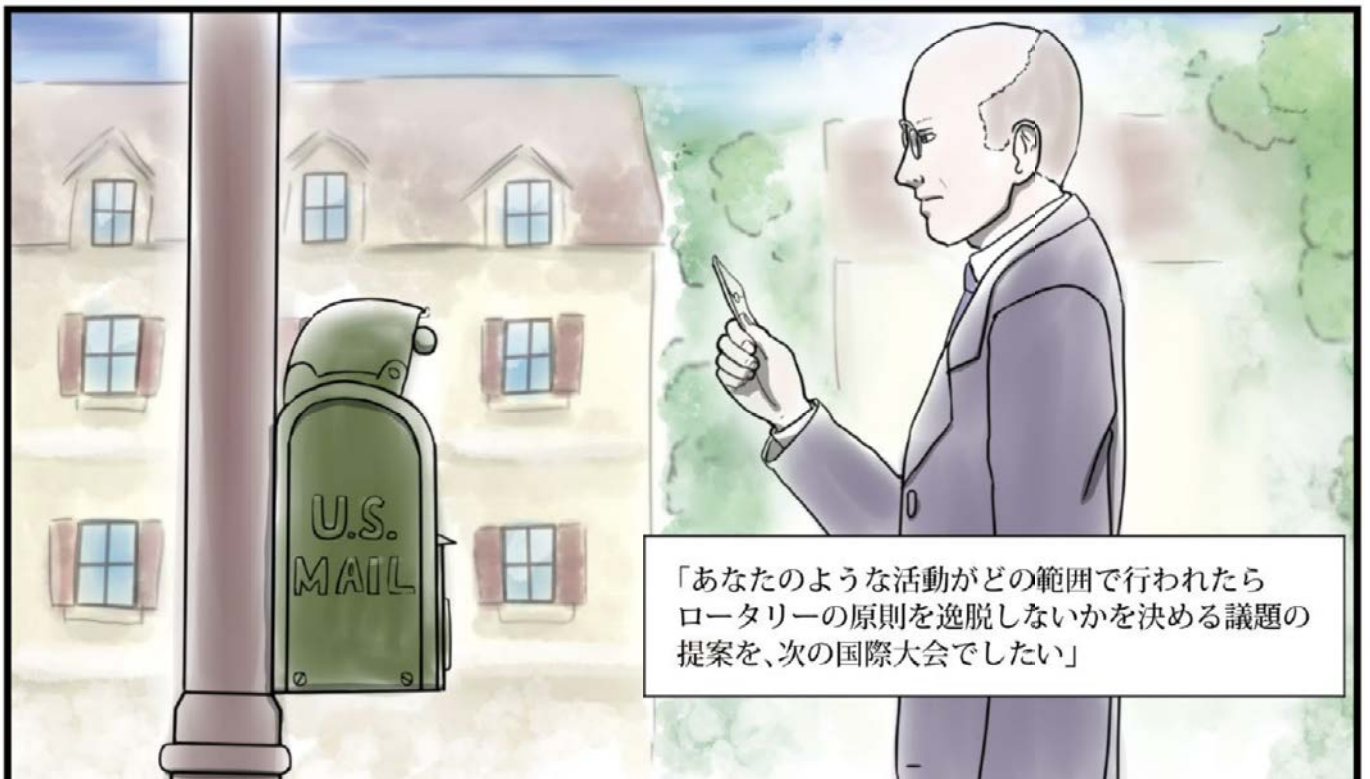
そう、ポール・ハリスへと手紙を書きました。



そしてポールはすぐさま返事を書きます。



「あなたを非難するロータリアンたちの考え方は絶対に間違っていないということをまず申し上げたい」



「あなたのような活動がどの範囲で行われたらロータリーの原則を逸脱しないかを定める議題の提案を、次の国際大会でしたい」



連載コミック

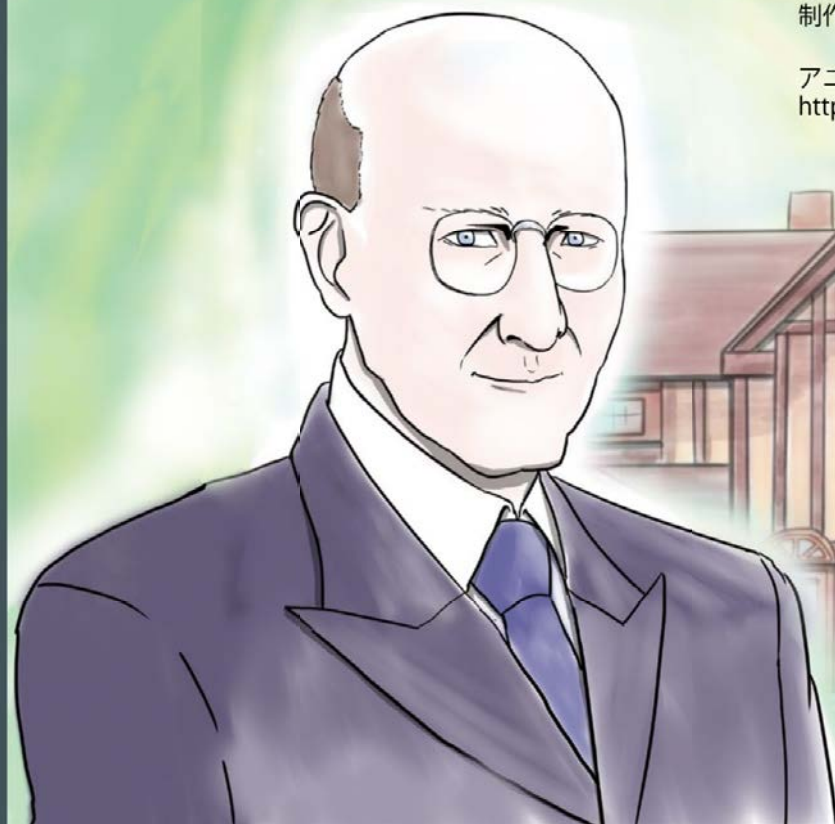
# ポール・ハリスと ロータリー

▶ 第6章

ロータリーの原理・原則（後半）

原作 佐古亮尊『ロータリーの森を歩く』  
監修 安平和彦（2002-03年度 第2680地区ガバナー）  
制作 株式会社アイディ

アニメーションも公開中！  
<https://www.rotary-no-tomo.jp/manga/>



作画 齋藤友紀



## 第6章 ロータリーの原理・原則（後半）

そして、奉仕活動の実践をロータリーの使命とする「実践派」、

奉仕の心の形成をロータリーの本質とする「理論派」に分かれ、ロータリー分裂の危機をもはらむ大論争になりました。

エドガー・アーレン

アーサー F. シェルドン

1922年

実践派より身体障害児救済事業に関する共同提案を受けた理事会は、この事業を奨励する決議22-17号を採択。

理事会は分かっている！

しかしその直後に開催された理事会では全く反する理事会決定がなされます。

国際ロータリーは身体障害児問題が重要であることを認める

しかし、これに全く夢中になり、ロータリーの目的が見失われることは望まない

理論派の立場を考慮したのか…？

理事会決議はさらに二転三転し…



1923年 セントルイス大会



理事会は「決議23-8号 障害児ならびにその救助活動に従事する国際的組織を支援する件」を提案。その内容は…

積極的に身体障害児対策を推奨するため、全米身体障害児協会の活動をロータリーが代行し、

その費用をロータリアン1人につき1ドルを国際ロータリーに別納する

というものでした。

ロータリーを何だと思っているんだ！



待てよ、これはクラブ自治権の侵害ではないか！

国際ロータリーが奉仕活動の実践をクラブに強要してはならない！



そして、シカゴ・ロータリークラブがこれに反対する決議23-29号を提案し、セントルイス大会の代議員たちを説得。



この騒然たる論議沸騰の中に2人の  
ロータリアンが名乗りを上げました。

テネシー州ナッシュビル・ロータリークラブ会員  
ウィリアム・メイニア・ジュニア





これにより議論の  
こうちやく  
膠着が解けました。



なるほど、ここでたもとを  
分かつのも忍びない



あなた方の提案を審議する  
ことを受け入れよう

そして、2人による代案が共同提案されました。

それが「決議23-34号」です。



「決議23-34号」の成立と引き換えに「決議23-8号」、  
「決議23-29号」は撤回されることになり、  
この論争に終止符が打たれました。

ポール・ハリス









だが、初めの一步を踏み出すためには、団体奉仕という強い一押しが必要な時だってある



理論か実践ではない

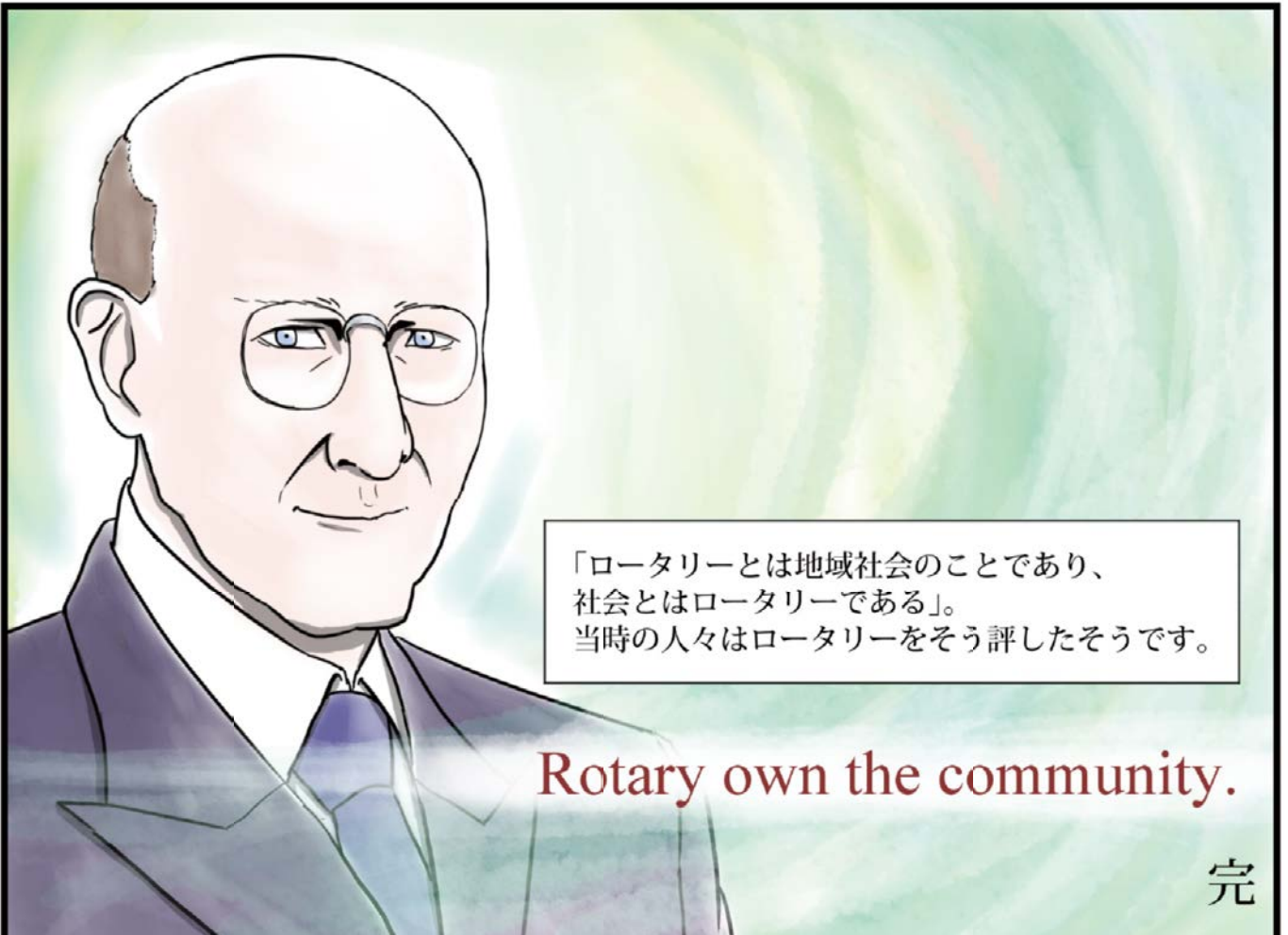
奉仕の心を行動へ、行動するにはまず心なんだ



親睦と奉仕、理論と実践、これらを調和させる寛容な心。



この全てがそろってこそ、ロータリーは形づくられるのではないのでしょうか。



「ロータリーとは地域社会のことであり、社会とはロータリーである」。当時の人々はロータリーをそう評したそうです。

**Rotary own the community.**

完